

# 原発事故被害者 相双の会

## 連絡先

國分富夫(会長)

## 住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

## メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

## 事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

坂上義博 090-1067-7265(大熊)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

## 「相双の会会報」 30号発行にあたって

2012年6月21日会津若松市稽古堂に於いて「原発事故被害者相双の会」が発足しました。このままでは被害者が馬鹿を見ると、相馬地方、双葉地方の被害者が生活再建をはじめとする人間らしい生活を求めて結成されました。

結成総会のなかでは多くの参加者から「避難生活の限界だ。みんなで団結して行かねばならない」等の発言が出ました。

「会報」は月に一回発行を目標にして皆さんの声を大事にしながら全員のものにする。また情報交換の材料にしていく事をめざしました。お陰様で何とか30号の発行までこぎつける事ができました。

政府は「復興」「被害者の生活再建」とはいうが、まもなく4年になろうとしているものの、現状回復や補償はおろか後始末さえまなりません。国は国策として国民の血のにじむような税金を使い原発を推進し、事故をひきおこしたその責任を取ろうとしていません。

人の手で制御できない原発事故の責任を「負える」者などいないのです。犠牲になるのは国民であり庶民なのです。今後被害者は何十年続くのか分からないほど放射能と向き合い不安を抱えながら生きていかなければならないのです。

私たちは福島のような悲惨な思いを二度とさせたくありません。

この30号記念に小出裕章先生をはじめ多くの方から寄稿していただきました。今後も皆さんのご意見を頂きながら、完全賠償と原発のない安心安全な社会づくりに奮闘していきたいと思えます。

この会報を読んで頂いた方々にご意見やご投稿いただければ励ましとなり、力づけられますので宜しくお願いします。

「相双の会」会長 國分富夫



↑相双の会と交流する、千葉県なのはな生協のトラックすべてに、脱原発の横断幕が

# 生きるということ

京都大学原子炉実験所 小出 裕章

福島第一原子力発電所事故の後、朝日新聞で「プロメテウスの罫」という連載が続いてきた。つい最近までは、本田雅和記者による「妻よ」という連載が続いていた。川俣町山木屋で暮らしていて、事故後の7月に自宅の庭で焼身自殺した渡辺はま子さんを取り上げた連載であった。

生きるということ、生活するということは、ただ家があって、ものを食べているということではない。歴史も文化も背負った土地があり、家族や隣人とのつながり、やりがいのある仕事など、全てを含んだものである。福島第一原子力発電所事故は、多くの人のそれを奪った。事故からすでに3年半以上の歳月が流れたが、生活を根こそぎ破壊された人々の苦難は一向に解消されていない。渡辺はま子さんを含めたくさんの方が自ら命を絶って行った。それは彼女たちだけが特別な重荷を背負ったためではない。「相双の会」に集まっている方々を含め、たくさんの人々の上に今も重くのしかかっている。その重さはおそらくは経験した人でなければ分からない重さであろう。もちろんそんなことを願うわけではないが、今後も自死する人が出てくるのではないかと私は危惧してしまう。本来であれば、賠償金を払うなどということではなく、被害を受けた住民をコミュニティごと移住させることこそ、国の責任である。

それなのに、この事故を引き起こした東京電力の関係者、政府関係者、学者など、誰一人として責任をとらないし、彼らは何の処罰も受けないまま、従来通りの安穏とした生活を続けている。彼らは被害者に対してはスズメの涙程度の賠償金さえ払えばいいかのような態度である。それどころか、彼らは今止まっている原子力発電所を再稼働させ、新たな原子力発電所も作り、さらに海外に輸出するとまで言っている。こんな犯罪を許してしまえば、悲劇はまた繰り返されてしまう。

日本では、国、電力会社、巨大原子力産業、ゼネコン、周辺の下請け企業、学者、マスコミが一体となって原子力を進めてきた。私は彼らは犯罪者集団だと思うし、「原子力マフィア」と呼ぶようにしているが、まさに巨大な権力である。残念ながら権力犯罪はより巨大な権力によってしか罰することができないことは歴史が示してきた。しかし、それを許してしまえば、彼らは犯罪を犯し続ける。一人ひとりの力は弱い。ともすれば余りの非力さに心が折れてしまう。しかし、小さくとも一人ひとりは全くの無力ではない、力を合わせ、真つ当な要求を掲げて戦い続けることは大切なことだと私は思う。

苦難のどん底に落とされている被害者の皆さんに私からお願いできることではないことは承知しているが、諦めずに立っていてほしい。

## 裁判の傍聴をつづけて

「相双の会を支えるやまがたの会」佐藤 淳二

昨年10月、山形でも有志が集まり、「原発事故被害者訴訟・相双の会を支えるやまがたの会」をつくった。目的は、裁判を通じて明らかにされるであろう東京電力の事故責任と、あの未曾有の放射能汚染によって人生も故郷も奪われた被害者の怒りと悔しさに寄り添い、生活再建のために自ら立ち上がった裁判闘争に少しでも連帯したい、との思いからであった。

この間、「支える会」では、國分富夫さんを講師に開催した「さようなら原発 米沢のつどい」を始め、相双の会のパンフ販売(250冊)や定期的「会報」配布、また裁判所に対する請願署名の集約(約1500筆)など、微力ながらも私達にできる精一杯のとりくみを行ってきた。

特に、これまで計7回開催された福島地裁いわき支所への傍聴行動には車数台で毎回参加してきた。そしていつも胸が締め付けられた事は、三年半経った今も全国に離散し裁判の度に、東京、埼玉、遠くは九州からも駆けつける原告団の皆さんの姿であり、強制避難の実態は一つ変わっていない事であった。

今日、原発推進派の巻き返しが強まっている。しかし被害者の完全賠償と脱原発の世論がある限り勝利の展望は必ず開ける。私達はもっと多くの人々に支援の輪を拡げたいと思う。

## 子どもの甲状腺がんの最短潜伏期間

道北勤医協 旭川北医院 松崎道幸

放射線被ばくから発がんまでの期間

を「潜伏期間」と言います。白血病などの血液疾患では数年、固形がんでは10年以上と言われていています。しかしこれらの数字は、「明らかに」発がんが増加するまでの年数です。人間には個体差がありますから、発がんまでの期間も様々なはずです

ところで、米国では「911テロ」時の発がん物質ばく露でがんになったとの訴えが増えたため、米国政府は、発がん物質曝露によるがんの「最短潜伏期」を決めて補償するかどうかを判断する必要が出てきました。米国は、これまでの疫学データをもとにして、がんの超過死亡が「増え始める時点」を探したわけです。

その結果、子どもの甲状腺がんは放射線被ばく後、最短1年で発病するとされました。したがって、現在までに福島で発見されている小児甲状腺がんの大半が福島原発事故と関連するということは、医学的にみてもあり得るということになります。

もちろん、この数字は、現時点における医学データに基づくものであり、例えば、大人の固形がんの4年という数字も、さらに短縮される可能性があるのではないかと思います。

911ワールドトレードセンター崩壊とがん発症に関する「James Zadroga 9/11 Health and Compensation Act of 2010」の補償基準(米国CDC)

	がん種	最短潜伏期間
成人	甲状腺がん	2.5年
	白血病・リンパ腫	0.4年
	中皮腫	11年
	上記以外の固形がん	4年
小児	白血病・リンパ腫	0.4年
	甲状腺がんなどの固形がん	1年



## －なのはな生活協同組合－

### 被災地視察(5月)の感想文から

この3年間、相双地方に被災地視察と交流に全国から大勢の方が訪れ、相双の会として受け入れてきました。中でも千葉県のはなのはな生協と、東京南部の皆さんは延べ170人近くがバスで来てくれました。なのはな生協の視察(5月)の感想と、東京南部の交流団(10月)参加者が「希望の牧場」を視察した際読まれた句を紹介します。

福島の方々の置かれた状況が分かりました。静かに話される被災者の方々の姿を前に新聞やラジオで知る現状とは遠いものであったのだと感じています。

町は汚されて捨てられた。人々は手も差し伸べられず、右往左往するのみであった。町の様子を見ると、東京電力も国も町を再生しようなんて真剣に思っていないとしか思えない。3年経った今もそのまま。町をこんなにした責任を誰もとらない。あれほどの事故で人々を不安にさせた責任を誰も言わない。この町に住んでいた人々は「東電を信じていた」「知らなかった」為にこんな結果を背負わされた。「知らなかった」ことで、こんな結果を許してしまったのは、原発を受け入れてしまった私たちの責任かもしれない。知ってしまった今でも再稼働、新設、輸出をしようとしている政府や電力会社は、一体どういうことなのか。到底受け入れられない。

もう「知らなかった」では済まされないのだと思った一日でした。

どうか、少しでも早く気の休まる日が訪

れるように (Aさん)

真新しい家がありました。小さなお子さんのいる若夫婦の家なのかな？その家族、この住宅の人達は今どこで、どんな思いで、どんな暮らしをしているのだろうか？戻れない3年という長い時間とその日のまま止まってしまった時を同時に感じしばらくは言葉もでませんでした。被災者の方々からのお話からは、今までカメラを通した向こう側の恐ろしい出来事だったのが、より近いものになりました。政治や裁判に携わる人は、皆現地視察し、被災者の方々の思いを聞き、自分のこととして考え、一刻も早く安心、安全、安定の人の営みを取り戻してほしいと思いました。

今はとにかく、自分は今のこの思いを、福島のことをわすれないこと。どんな形でも被災者の方々を応援する心を持ち続けていこうと思います。

福島の方々が光を見い出せるまでお身体を壊さぬようにと願っております。(Kさん)

殺処分を免れ 乏しき草を喰む  
牛はまさしく 人と重なる

東京世田谷 勝守真知子

#### 相双の会カンパ先

会報の読者が拡大し、印刷・発送費用がかかるようになりました。

「福島原発避難者訴訟相双の会原告団を支える会」02240-6-136464

#### 「相双の会」 会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。

匿名でもけっこうです。

電話 090 (2364) 3613 メール (國分) kokubunpi-su@hotmail.co.jp

